ヘブル人への手紙 13:19 愛し、手放し、神のために生きる

ここ数週間ヘブル人への手紙を通して、クリスチャンの人生がマラソンに例えられることを私たちは学んできました。実は、私も今年の 12 月に初めてのマラソンに挑戦するためにトレーニングをしています。これまで何度もマラソンを走ってきたベン牧師とは違って、私はまだ準備の仕方を学んでいるところです。おすすめのトレーニングとして、「ゾーン 2 トレーニング」というものをよく目にします。これは、走りながら普通に会話ができるくらいのペースで走る練習です。このペースは比較的楽で、持久力をつけるためにも大切です。しかし、この練習だけを続けていては、私はマラソンに十分備えることはできないと思っています。よりきつい練習も必要です。同じように、信仰のマラソンでも、私たちは楽な道だけを選ぶように召されているのではありません。忍耐をもって走り続け（ヘブル 12:1）、賞を得られるように走るために（1 コリント 9:24）召されているのです。では、どのようにして私たちはしっかりと走ることができるのでしょうか。今日の聖書箇所は、その問いに答える助けとなります。そして、今日皆さんに覚えていただきたい中心的なメッセージは、次のことです。**キリストが私たちのためにご自身を捧げてくださったからこそ、正しく愛し、手放してキリストのもとへ行き、神のために生きるように、私たちは招かれているのです。** *ヘブル人への手紙* 13-1-19 を見ていくにあたり、次の 3 つの教えについて考えていきたいと思います。*第一に、私たちは正しく**愛さ**なければなりません（1-6 節）。第二に、私たちは**手放し**て、キリストの元へ行かなければなりません（7-14 節）。第三に、私たちは神のために**生き**なければなりません（15-19 節）。*

I. 私たちは正しく愛さなければならない (*13:1-6*)

著者は、まずこう語り始めます。**【1 節】「兄弟愛をいつも持っていなさい。」**「いつも持っていなさい」という言葉に注目してください。この手紙を受け取った信者たちは、迫害や投獄、さらには財産を奪われるという経験までしていました（ヘブル 10 章）。それでも、彼らは互いに愛を示し続けていたのです。著者はそのことを認め、これからも愛し続けるように励ましています。信仰の競走を走り続けていた、疲れを覚えている信者たちにとって、これはどれほど大きな励ましだったことでしょう。続いて、著者はこう語ります。**【2 節】「旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、知らずに御使いたちをもてなしました。」**これはおそらく、創世記 18 章に登場するアブラハムの出来事を思い起こさせるものです。その旅人たちが本当は誰なのか完全には分かっていなかったにも関わらず、アブラハムは突然訪れた 3 人の旅人を迎え入れ、食事や飲み物を用意しました。その人たちが誰なのか、また自分の親切心がどのような結果につながるのかも知らずにアブラハムが旅人たちを迎え入れたように、このヘブル人の信者たちも、自分自身が困難の中にあっても、他の人々を温かくもてなすように求められていたのです。次に、著者はこう言います。**【3 節】「牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで思いやりなさい。また、自分も肉体を持っているのですから、虐げられている人々を思いやりなさい。」**著者は、信仰のゆえに投獄されたり、ひどい扱いを受けたりしている人々を、まるで自分自身が苦しんでいるかのように思いやるように、教会に求めています。これは、コリント人への手紙　第一 12:26 のパウロの言葉を思い起こさせます。「一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ…」考えてみてください。腕が痛くなったとき、体全体が反応しますよね。脳が痛みに気づき、目で確認し、そして口はそのことを周りの人に伝えるかもしれません！ ほんの数秒のうちにです！
同じように、教会も、一人の教会員が苦しんでいるときには、それに応答すべきなのです。しかし、兄弟姉妹の皆さん、私たちはそのようにしているでしょうか。誰かが苦しんでいることや、最近教会に来ていないことに気づいているでしょうか。自ら声をかけていますか。それとも、誰か他の人が声をかけるのを待っているでしょうか。日常の困難に直面している人々を思いやることも大切である一方、ここで語られている特定の人々のことを忘れてはいけません。それは、信仰のゆえに苦しんでいるクリスチャンたちです。私たちはその人たちを個人的には知らないかも

しれません。それでも、彼らのことを覚え、祈り、自分たちにできる方法で支えることができます。さらに、著者はこう続けます。**【4 節】「結婚がすべての人の間で尊ばれ、寝床が汚されることのないようにしなさい。神は、淫行を行う者と姦淫を行う者をさばかれるからです。」**神は創造の時に結婚を定められました（創世記 2:24）。そして、結婚している人も、していない人も、全ての人に結婚を尊ぶよう求めておられます。結婚している人は配偶者に誠実であるべきです。そして、結婚していない人も、性的な純潔を守るように求められています。これは非常に大切なことです。なぜなら、神は性的な不道徳を裁かれるからです。続いて、著者は別の問題、つまりお金について語ります。**【5 節】「金銭を愛する生活をせずに、今持っているもので満足しなさい。主ご自身が『わたしはあなたを決して見放さず、あなたを見捨てない』と言われたからです。」**私たちが、今持っているもので満足できる理由に注目してください。それは、私たちが欲しいものをすべて持っているからではありません。神が、決して私たちを離れず、見捨てないと約束してくださっているからです！そして、この確信をもって、著者は詩篇 118:6 を引用します。**【6 節】「主は私の助け手。私は恐れない。人が私に何ができるだろうか。」**また、クリスチャンの愛がどれほど具体的なものであるかに注目してください。旅人を迎え入れ、苦しんでいる人々を覚え、結婚を尊び、お金を自分の安心のよりどころにしないのです。愛とは、単に言葉で語るものではありません。私たちの生き方に表れるものなのです。これらの命令は、一見するとそれぞれ違うことについて語っているように見えるかもしれません。しかし全て、私たちの心が何を大切にし、何を愛しているのかを示しているのです。*私たちは、人々を迎え入れ、助けるほどに、その人を大切にしているでしょうか。結婚を尊ぶほど、神が設計されたものを大切にしているでしょうか。お金よりも、神が共にいてくださることを大切にしているでしょうか。*その答えは、私たちの生き方に表れます。時には、自分の心地よさを犠牲にしなければならないこともあるでしょう。それでも私たちは愛することができます。なぜなら、神は決して私たちを見捨てないからです。ですから、**私たちは正しく愛さなければなりません。**

II. 私たちは手放して、キリストの元へ行かなければならない（*13:7-14*）

さて、皆さんの中には、「具体的には何を手放さなければならないのだろうか。そして、なぜキリストの元へ行かなければならないのだろうか」と疑問に思っている方もいるかもしれません。次に見ていく聖書箇所を通して、その答えを見つけていきたいと思います。このことを理解するために、著者はまず、教会の指導者たちの模範について考えるように、また**［7 節］「彼らの生き方から生まれたものをよく見て、その信仰に倣いなさい」**と語っています。これは、11 章に登場する信仰の模範となった人々と似ています。しかし、ここで注目してほしいことがあります。著者は、指導者たちを見習いなさいと単に言っているのではありません。その指導者たちが信仰していた方へ、読者たちの目を向けさせているのです。**【8 節】「イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。」**教会の指導者たちは、来たり去ったりするかもしれません。しかし、イエス・キリストは同じであり続けるのです！彼らが信頼していたキリストは、今日、私たちが信頼しているキリストと同じ方なのです。そして、イエスは決して変わることのないお方だからこそ、イエスについての真理も同じであり続けるのです。だからこそ、著者は次のように警告しています。**【9 節】「様々な異なった教えによって迷わされてはいけません。食物の規定によらず、恵みによって心を強くするのは良いことです。食物の規定にしたがって歩んでいる者たちは、益を得ませんでした。」**著者は、私たちの心を強めるのは宗教的な食物の慣習ではなく、神の恵みであることを読者に思い起こさせています。これは大切な教えです。なぜなら、続く節でも同じことが示されているからです。私たちは、儀式や慣習ではなく、キリストが成し遂げてくださったことに希望を置くべきなのです。著者は、旧約のいけにえの制度を用いて説明します。**【10-11 節】「私たちには一つの祭壇があります。幕屋で仕えている者たちには、この祭壇から食べる権利がありません。動物の血は、罪のきよめのささげ物として、大祭司によって聖所の中に持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるのです。」**著者がここで語っている「祭壇」は、旧約時代のいけにえの制度をはるかに超えるもっとすばらしい

もの、つまり、キリストがご自身をいけにえとして捧げることによって成し遂げてくださったものです。旧約の制度では、罪のためのいけにえを繰り返し捧げる必要がありました。しかし、イエスはただ一度、ご自身を完全ないけにえとして捧げてくださいました。そして、その犠牲は、**【12 節】「ご自分の血によって民を聖なるものとするために」**十分なものだったのです。だからこそ、私たちの希望はキリストのみに置かれなければならないのです。私たちは、自分の努力によって自分自身を聖なる者にすることはできません。ただイエスだけが、その犠牲によって、私たちを神の御前に正しい者としてくださるのです。ここで、著者がいけにえの場所と、イエスが苦しまれた場所をどのように結びつけているかに注目してください。血が聖所に運ばれた動物は、宿営の外で焼かれました。同じように、イエスも門の外で苦しまれたのです。恥とされるような場所が、私たちの救い主がご自身を民のために捧げられた場所となりました。そして著者は、驚くべき命令を持って私たちに備えさせています。**【13 節】「ですから私たちは、イエスの辱めを身に負い、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。」**キリストは、拒絶と恥を連想させる場所で苦しまれました。この信者たちも、キリストと一体になるようにと招かれていました。たとえそれによって、これまで楽しみと感じていた、人々からの受け入れられることや安心を失うことになったとしてもです。苦しみを追い求めなさいと言っているのではなく、たとえ辱めを受けることになったとしても、キリストの元へ行きなさいと言っているのです。兄弟姉妹の皆さん、これはすべての信者に向けられた招きです。キリストの血は皆さんの命を贖い、キリストの犠牲によって皆さんは神の御前で聖なる者とされたのです！私たちがキリストによって受けたものと、いったい何を比べられるでしょうか。信者の皆さん、この世は私たちが住むところではありません。著者もこのように私たちに思い出させます。**【14 節】「私たちは、いつまでも続く都をこの地上に持っているのではなく、むしろ来たるべき都を求めているのです。」**さて、兄弟姉妹の皆さん、私たちはこの人生において、何を握りしめているでしょうか。もしかすると、それは自分の評判かもしれません。キリストに従いたいと思っていても、周りの人たちから好かれたいという思いがあるために、自分の信仰については口を閉ざしているのかもしれません。あるいは、人間関係かもしれません。キリストに従いたいけれど、愛する人たちに受け入れてもらえなくなることを恐れているのかもしれません。それとも、家族、家、そして計画という、この地上で築いてきた生活の安心かもしれません。これらは、神からの良い贈り物です！しかし、たとえ大きな犠牲を払うことになったとしても、私たちはキリストに従いたいと思っているでしょうか。ヘブル人への手紙が伝えているメッセージは明確です。**イエスこそ、何よりもすぐれたお方なのです**！イエスは、この世が与えるどんなものよりも、はるかにすぐれたお方です。ですから、失うかもしれないもののみに目を向けるのではなく、キリストにあって既に得ているものに目を向けてください。「私が失うことを恐れているものよりも、キリストは価値があるお方なのか」と、自分自身に問いかけてみてください。キリストに従うことで、たとえ何かを失うことになったとしても、私たちはそれを**手放し、キリストの元へ行かなければならない**のです。

III. 私たちは神のために生きなければならない（13:15–19）

キリストが何よりも価値があるお方であると知るとき、私たちは何を手放す覚悟を持つかだけでなく、神との関係においても、また互いの関係においても、どのように生きるかが変わってくるのです。15 節には、こう書かれています。**【15 節】「それなら、私たちはイエスを通して、賛美のいけにえ、御名をたたえる唇の果実を、絶えず神にささげようではありませんか。」**キリストは、罪のための完全ないけにえとして、ご自身を既に捧げてくださったので、私たちは旧約の制度で定められていた、いけにえを繰り返し捧げるという必要はもうありません。その代わりに、今私たちは神に賛美と感謝のいけにえを捧げることができるのです！そして、「絶えず」という言葉に注目してください。神への礼拝は、日曜日の朝だけのものでも、物事がうまくいっている時だけのものでもありません。私たちは困難の中にあっても、生涯を通して神を賛美するように召されているのです。しかし、礼拝とは口から出るものだけではありません。続く節を見てください。**【16 節】「善を行うことと、分かち合うことを忘れてはいけません。そのようないけにえを、**

神は喜ばれるのです。」私たちの賛美と行動は結びついています。持っているものを分かち合い、他の人々を思いやるとき、私たちは生き方を通して神を礼拝しているのです。これは、最初の 6 節で見てきた愛につながっています。私たちは唇で神を賛美し、善を行い、持っているものを分かち合うことによって、神を喜ばせるのです。もし日曜日に神の愛について歌っていながら、月曜日には困っている人を気にかけることを拒否するのであれば、私たちの礼拝には何かが欠けているのです。これが特に具体的に表れる場所の一つが、教会生活です。著者はこう言います。**【17 節】「あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人たちは神に申し開きをする者として、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。」**教会の長老たちには、神の民を世話するように委ねられています。もちろん、私たちが抱えるすべての問題を解決することが、長老たちの責任ではありません。しかし、神の御言葉を忠実に教え、私たちがキリストに従って歩めるように助けることが長老たちには求められています。そして私たちにも、その教えを謙虚に受け入れる責任があります。ですから、ベン牧師、ヒロ牧師、デックス牧師、JP 牧師、キヨ牧師がここに立ち、神の御言葉を語るとき、私たちは注意深く耳を傾け、その教えを聖書に照らして吟味し、実践するように努めるべきです。それは、単に彼らが牧師だからではありません。神の御言葉は、私たち全員の上に権威を持っているからです。そして、私たちが謙虚に、忠実に応答するとき、指導者たちは、**【17 節】「喜んでをそのことをし、嘆きながらすることのならないように」**その働きをすることができるのです。しかし、私たちには、指導者たちを支えるもう一つの方法があります。著者はこのように締めくくっています。**【18-19 節】「私たちのために祈ってください。私たちは正しい良心を持っていると確信しており、何事についても正しく行動したいと思っているからです。私があなたがたのもとに早く戻れるように、なおいっそう祈ってくださるよう、お願いします。」**著者は、この信者たちと親しい関係にあり、再び会うことを強く願っていたようです。そして彼らに霊的に教える立場でありながら、自分のために祈ってほしいとお願いしているのです！これは、霊的な指導者たちも私たちの祈りを必要としているという、すばらしい気づきを与えます。私たちの牧師や長老たちも、私たちと同じなのです。彼らも私たちと同じように、様々な葛藤や誘惑、困難に直面します。彼らもまた、神の恵みを必要とする罪人なのです。ですから、キリストとその教会に忠実に仕えている彼らのために祈ることは、私たちが彼らを愛し、彼らを支える一つの方法なのです。*兄弟姉妹の皆さん、私たちは長老たちのために祈っているでしょうか。彼らが私たちを導くとき、神が知恵と力、そして忠実さを与えてくださるように祈っているでしょうか。そして、私たち自身も神の御言葉に耳を傾け、それに従って生きることができるように祈っているでしょうか。*神のために生きるとは、神を賛美し、他の人々に善を行い、神の御言葉を受け入れ、他の人のために祈ることを通して、神への愛を表すことです。私たちがこれらのことを行うのは、救いを得るためではなく、キリストが私たちのためにご自身を捧げてくださったからなのです。ですから、**私たちは神のために生きなければならないのです。**この信仰のマラソンを走り続けることは、決していつも心地よいのではありません。痛みや苦しみ、困難に直面することもあるでしょう。しかし、キリストが私たちのためにご自身を捧げてくださったからこそ、私たちは正しく愛し、キリストに従うために必要であれば、大切なものさえも手放し、神のために生きることができるのです。そして、キリストがすでに私たちの救いを確かなものとしてくださったことを知っているからこそ、私たちは忍耐をもって走り続けることができます。また、いつの日か、私たちより先に信仰の歩みを終えたすべての兄弟姉妹とともに、やがて来る都で、ついにキリストと永遠に過ごすことができる日を、希望をもって待ち望むことができます。祈りましょう。

Hebrews 13:1-19: **Love, Leave, Live for God**

Over the past few weeks, we've heard from the author of Hebrews that the Christian life is like a marathon. Funny enough, I'm training for my first marathon this December! Unlike Pastor Ben, who has run many, I'm still learning how to prepare. One recommendation I keep seeing is "*Zone 2 training,*" or simply a pace where you can still have a normal conversation. This pace is comfortable and important for building endurance, but I can't expect to be fully prepared for my race if I only ever run at this pace. I need to do harder workouts. And in this marathon of faith, we're not called to choose what's comfortable; we're called to run with endurance (Hebrews 12:1) and to run to obtain the prize (1 Corinthians 9:24). So how do we run well? Our passage today will help us answer that question. And here's the main idea I want us to see: ***Because Christ has given Himself for us, we are called to love rightly, leave and go to Him, and live for God.*** As we look at Hebrews 13:1-19, I want us to consider these three instructions: First, *we must* ***LOVE*** *rightly (vv. 1-6); second*, *we must* ***LEAVE*** *and go to Christ (vv. 7-14)****.*** *Third, we must* ***LIVE*** *for God (vv. 15-19).*

I. We must LOVE rightly (13:1-6)

The author begins: **[1]** ***"Let brotherly love continue."*** Notice the word "continue." Let's remember that these believers had experienced persecution, imprisonment, and even the loss of their possessions (Hebrews 10:32-34), yet they continued to show love to one another. The author recognizes this and encourages them to keep going! What an encouragement this must have been to these weary believers as they continued running the race of faith. The author continues: **[2]** ***"Do not neglect to show hospitality to strangers, for thereby some have entertained angels unawares."*** This likely points back to Abraham in Genesis 18, where he welcomed three unexpected visitors and offered them food and refreshment, without fully realizing who they were. Just as Abraham welcomed these strangers without knowing who they were or what would become of his kindness, these Hebrew believers were called to show hospitality, even amid their own difficulties.

Next he says: **[3]** ***"Remember those who are in prison, as though in prison with them, and those who are mistreated, since you also are in the body."*** The author wants the church to care for those who are imprisoned and are mistreated for their faith as if they were the ones suffering. This reminds us of Paul's words in 1 Corinthians 12:26: "If one member suffers, all suffer together." Think about it: when your arm hurts, your whole body responds. Your brain notices, your eyes confirm it, and your mouth might tell everyone! All in a matter of seconds!

In the same way, the church should respond when a member is suffering. *But brothers and sisters, are we like that? Do we notice when someone is struggling or missing? Do we reach out to them, or do we simply wait for someone else to?* And while we should certainly care for those facing ordinary struggles, we must not forget the particular people mentioned here: Christians who suffer because of their faith. We may not know them personally, but we can remember them, pray for them, and support them in whatever ways are available to us.

The author goes on: **[4]** ***"Let marriage be held in honor among all, and let the marriage bed be undefiled, for God will judge the sexually immoral and adulterous."*** God established marriage in creation (Genesis 2:24), and He calls everyone, married or unmarried, to honor it. Married couples are to remain faithful to their spouse, while those who are unmarried are called to sexual purity. This is serious because God will judge sexual immorality. Then the author addresses another area: money. **[5]** ***"Keep your life free from***

love of money, and be content with what you have, for he has said, 'I will never leave you nor forsake you.'" Notice why we can be content. Not because we have everything we want, but because God promises never to leave or forsake us! And with this assurance, the author directly quotes Psalm 118:6: ***[6] "The Lord is my helper; I will not fear; what can man do to me?"*** Notice how practical Christian love is. It welcomes strangers, remembers those who are suffering, honors marriage, and refuses to make money its security. Love is not merely something we say; it's something we live. These commands may seem to cover a wide area of subjects, but they all show what our hearts value and love. *Do we value people enough to welcome and help them? Do we value God's design enough to honor marriage? Do we value God's presence more than money?* Our answers to these questions will be expressed in how we live. Sometimes it will cost us comfort, but we can love because God will never forsake us. And so, **we must LOVE rightly.**

II. We must LEAVE and go to Christ (13:7-14)

Now, maybe some of you are wondering, "What exactly are we called to leave behind, and why must we go to Christ?" As we look at these next verses, we'll find the answers. To understand this, the author first tells his readers to consider the example of their church leaders and ***[7] "the outcome of their way of life and imitate their faith."*** This is similar to the examples of faith in chapter 11. But notice that the author doesn't simply tell them to imitate them; he points them to the One in whom their leaders had placed their faith: **[8] "Jesus Christ is the same yesterday and today and forever."** Their leaders may have come and gone, but Jesus Christ remains the same! The Christ they trusted is the same Christ we trust today. And because Jesus never changes, the truth about Him remains the same. That's why the author warns them: **[9] "Do not be led away by diverse and strange teachings, for it is good for the heart to be strengthened by grace, not by foods, which have not benefited those devoted to them."** The author reminds his readers that God's grace strengthens the heart, not religious food practices. This teaching is important because the following verses echo the same thought. Our hope should not rest on religious practices, but on what Christ has done for us. The author explains using the old sacrificial system: **[10]** ***"We have an altar from which those who serve the tent have no right to eat.*** **[11]** ***For the bodies of those animals whose blood is brought into the holy places by the high priest as a sacrifice for sin are burned outside the camp."*** This "altar" that the author talks about points to something far greater than the old sacrificial system: what Christ accomplished through his sacrifice. Unlike the repeated sacrifices needed for sin in the old system, Jesus offered Himself once for all, and His sacrifice was sufficient **[12]** ***"to sanctify the people through his blood."*** And this is why our hope must be in Christ alone. We cannot make ourselves holy through our own efforts. Only Jesus, through His sacrifice, can make us right with God. Notice how the author connects the place of those sacrifices with the place where Jesus suffered. The animals whose blood was taken into the holy places were burned outside the camp. Jesus, too, suffered outside the gate. What looked like a place of disgrace became the place where our Savior gave Himself for His people. The author is preparing us for a surprising command: **[13]** ***"go to him outside the camp and bear the reproach he endured."*** Christ suffered in a place associated with rejection and shame. These believers were called to identify with him, even if it meant losing the acceptance and security they once enjoyed. They are not being told to seek out suffering, but to go to Christ even if it brought reproach. Brothers and sisters, this is the call of every believer. Christ's blood has purchased your life, and through his sacrifice, you have been made holy before God! What could compare to what we have received in Christ? Believers,

this world is not our home, as the author reminds us: **[14]** ***"for here we have no lasting city, but we seek the city that is to come."***

So brothers and sisters, what are we holding on to in this life? Perhaps it's our reputation. We want to follow Christ, but we also want to be liked by those around us, so we keep our faith quiet. It may be our relationships. We want to follow Christ, but we're afraid of losing the acceptance of those we love. Or maybe it's the security of the life we've built here on earth: our families, homes, and plans. These are good gifts from God! But are we willing to follow Christ even when doing so might cost us dearly? *Hebrews' message is clear:* ***Jesus is better!*** He is far better than anything this world can offer. And so, instead of focusing only on what we might lose, look at what we have gained in Christ. Ask yourself: *"Is Christ worth more than what I'm afraid of losing?"* Whatever we might lose by following Christ, **we must** be willing to **leave** it behind **and go to Him**.

III. We must LIVE for God (13:15–19)

Knowing that Christ is worth more than anything not only changes what we're willing to leave behind, but also how we live—with God and with one another. Verse 15 says: **[15]** ***"Through him then let us continually offer up a sacrifice of praise to God, that is, the fruit of lips that acknowledge his name."*** Because Christ has already offered Himself as the perfect sacrifice for sin, we no longer need to offer the repeated sacrifices prescribed in the old system. Instead, we can now offer sacrifices of praise and thanksgiving to God! And notice the word *continually*. Our worship of God isn't limited to Sunday mornings or when things are going well. We are called to praise Him throughout our lives, even amid difficulties. But worship isn't just about what comes out of our mouths. Look at what the author says next: **[16]** ***"Do not neglect to do good and to share what you have, for such sacrifices are pleasing to God."*** Our praise and our actions go together. When we share what we have and care for others, we worship God through the way we live. This takes us right back to the love we saw in the first six verses. We praise God with our lips, and we please Him by doing good and sharing what we have. If we sing about God's love on Sundays and then refuse to care for those in need on Monday, something is missing from our worship.

One place this becomes very practical is in the life of the church. The author says to **[17]** ***"obey your leaders and submit to them, for they are keeping watch over your souls, as those who will have to give an account."*** Our elders are entrusted with caring for God's people. They are not responsible for fixing every problem we face, but they are called to faithfully teach us God's Word and help us follow Christ. We also have a responsibility to receive that teaching humbly. So when Pastor Ben, Pastor Hiro, Pastor Dex, or Pastor JP stands here and preaches God's Word, we should listen carefully, examine what they teach in light of Scripture, and seek to put it into practice. Not simply because they are pastors, but because God's Word has authority over all of us. And as we respond humbly and faithfully, we help our leaders serve **[17]** ***"with joy and not with groaning."*** But we can support our leaders in another way. As the author closes, he says: **[18]** ***"Pray for us, for we are sure that we have a clear conscience, desiring to act honorably in all things.*** **[19]** ***I urge you the more earnestly to do this in order that I may be restored to you the sooner."*** It seems that the author shared a close relationship with these believers and longed to be reunited with them. And despite being their spiritual teacher, he asks them to pray for him! What a wonderful reminder that our spiritual leaders need our prayers, too. Our pastors and elders are people just like us. They face struggles, temptations, and difficulties as we do. They, too, are sinners who need God's grace. So one way we can love and support them is

by praying for them as they faithfully serve Christ and His church. *Brothers and sisters, do we pray for our elders? Do we pray that God would give them wisdom, strength, and faithfulness as they lead us? And do we pray that we ourselves would be willing to listen to God's Word and live according to it?* To live for God is to praise Him and show our love for Him by doing good for others, receiving His Word, and praying for others. We do these things not to earn our salvation, but because Christ has given Himself for us. Therefore, **we must LIVE for God.**

Running this marathon of faith will not always be comfortable. There will be pain, suffering, and difficulty. But because Christ has given Himself for us, we can love rightly, leave behind whatever following Him may cost us, and live for God. And we can keep running with endurance, knowing that Christ has already secured our salvation. We can look forward with hope to the day when we will finally be with Him, together with all our brothers and sisters who have gone before us, in the city that is to come. Let's pray.